

母はパパ(ファイルNo.51)

『後奈良院御撰何曾(こならいんぎよせんなど)』という室町時代の書物があります。書名の最後の「何曾」とは「謎」で、古くから伝わるナゾナゾを集めた書物です。収録されているナゾナゾのひとつに次のようなものがあります。

「母には二たびあひたれども父には一度もあはず」

母には二度会うけれども父には一度も会わない、それは何ですか、というナゾナゾです。答えは、唇(くちびる)とされています。

問題と解答は示されていますが、解答を教えられても「なるほど」とならないのです。このナゾナゾの答えが「くちびる」である理由が理解できないからです。理由は長い間、分かりませんでした。「謎」のナゾナゾだったので。

江戸時代後期の国学者は、このナゾナゾを「母は歯々の意、父は乳の意にて上唇と下唇、下唇と上唇とあふは二度なり。我乳はわが唇のとどかぬ物なれば、一度もあはぬ意にて唇」と解きました。

この国学者の謎解き自体がナゾのように分かりにくいのです。母を「歯歯」とするのはよいとして、唇と歯が二回接するとはどういう風に考えればよいのでしょうか。

分かりやすいのは父のほうで、これは傑作。自分の乳に自分の唇は届かないから一度も会わないというのです。他人の乳ならともかく、自分の乳だと無理だなと真剣に考えている国学者を想像すると笑えます。かなり強引な謎解きという感否定できず、正解にはほど遠いと酷評しておきましょう。

◎名探偵登場

ここで名探偵の登場。『広辞苑』の編者として著名な新村出(しんむら・いずる)さんです。『波行軽唇音沿革考』(一九二八年)で、音韻史と結びつけて考察しました。前回の「にほんご探偵局」で、「は」の発音が時代によって変化したことをご紹介しました。「は」の発音はパ、ファ、ワと変化しました。

ハハの発音は、古くはパパ。読者の皆さんにお願いします。パパと声に出してみてください。上下の唇が二度触れ合うはずで、チチでは一度も触れ合いません。

せん。これが謎解き。見事というほかありません。

ただ、これが正解だという確証はありません。最初に挙げた書物には、唇という答えはあるものの、その理由や解説がないのです。また、ミステリーにありがちな謎解き後の疑問も残ります。疑問とは、最初に挙げた書物が成立した室町時代、母はパパと発音されていたのか、ということ。母の発音は、パパ、ファファ、ファフ、ハフなどと変化したと考えられますが、室町時代にはファフの発音が広まっていたといわれます。だから、室町時代の人には、このナゾナゾは解けないし、答えを聞いても納得できないと考えられます。パパと発音していた頃の古い時代のナゾナゾも収録したので、ようから、先の書物に注釈でもあって、「古くは母はパパと発音されていた。パパと発音すると唇が二回つく」といった解説があったなら問題はないのです。

これままでのところ新村さん以上の謎解きはないので、ここでは新村説を正解としておきます。疑問点は新たに史料などが発見されて解決するかもしれません。以上、紹介したナゾナゾは、日本語の歴史に関する大学の講義などでも、しばしばとりあげられるそうです。おもしろい内容なので。

読者からのお便り

自然を大切に

和歌山県日高郡 石橋M様
わが家に今年もフジバカマの花が咲きました。アサギマダラも遊びに来てくれました。思わず「お帰り」と言って、眺めています。自然を大切に守りたいです。

温まります

松山市 鳥越M様
いつもためになる記事を読みます。今年もガスファンヒーターのお世話になる季節。気分も引き締めつつ、温まります。

スープ、みそ汁も

大阪府豊中市 伊藤K様
11月に入って急に寒くなってきました。朝、エフィールウォーターでコーヒーを飲むので、お湯を作っています。スープとかみそ汁も飲んでみ

よつかと、今月は思っています。心強い備蓄

神奈川県川崎市 神田K様
毎日おいしくいただいています。12月の水を備蓄していると、災害時も心強いです。ライフラインが使えなくても、お水があるのありがたいです。これからも、おいしいお水、よろしく願います。

念願のリフォーム

滋賀県近江八幡市 平田A様
やっと、ついに、ようやく、11月にリフォームにござつきました。大丸エナウィンさんに何度も足を運んでいただき、念願のリフォームに、やったあ、楽しみだなあ。



世界自然遺産 知床らうす 海洋深層水

らうす町許可番号 第02060110号

純水プレス

2022 TASTE AWARDS 最高金賞受賞

2022 LAND ONE AWARDS 最高金賞受賞

fill water

宅配料込

1台2役

●ボトル1本 12リットル 1,620円
●安心サポートパック 1,100円/月

※税込価格となります。